

NTK

てっこう長野

Vol.23

2013 年 1 月

E-mail na-tetsu@mx2.avis.ne.jp

TEL.026-228-5748

FAX.026-228-0590

製作:長野県鐵構事業協同組合



『(株)東信ジャーナル社提供』

理事長挨拶	2
組合通常総会開催	3
講演会「千代田レポートから37年」	4
表彰者の紹介	4
県青年部会総会	5
技能五輪全国大会へ選手出場	5
組合員だより (東信支部)	6
顧問県議との懇談会	7
理事会・委員会だより	10
青年部会だより	11
工場認定申請及び予定状況	12
組合員の動き	12
組合からのお知らせ	12
編集にあたって	13
表紙のことば	13

理事長あいさつ

創立40周年の節目を迎え・・・



長野県鐵構事業協同組合

理事長 高木 秀雄

新年を迎え、皆様方におかれましては清々しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、私ども長野県鐵構事業協同組合は平成24年度に創立40周年を迎えることができました。組織の前身である長野県鉄骨協会を昭和48年2月に発足し、昭和60年5月の法人化を経て、40年という節目を無事に迎えたことは関係皆様方のご指導・ご支援の賜物と深く感謝申し上げる次第であります。

我々の業界40年を振り返ってみましても、非常に活性化している時期もありましたが、とりわけ直近の日本経済はリーマンショックの影響、東日本大震災の発生などの諸要因により低迷しており、鉄骨業界も極めて厳しい状況にあります。

組合としては、県発注物件を含め、発注元の市町村および元請建設業に対し、地元鉄骨業者を指定して適正価格で受注できるように要請し、最低入札価格の引き上げ等の働きかけをして参りましたが、これ以上の価格の下落を阻止するように引き続き声を上げていきたいと思えます。

最近の市況は、記憶に新しい平成23年3月

の東日本大震災と福島第一原子力発電所事故により多大な被害を受けましたが、ようやく復興工事も始まりました。また首都圏物件等により各社多忙な時期を向かえつつあり、少し見通しが明るくなってきたと思います。

昨年長野県で行われた技能五輪全国大会では『構造物鉄工』種目へ当組合会員企業から選手を1名派遣し、選手は練習の成果を十分に発揮し大健闘しました。平成22年から3年間に亘りこの長野県大会を目標として選手育成にご尽力いただきました、組合内外の関係者の皆様には大変感謝をしています。この試みが我々業界の若年技術者に良い刺激を与え、技術継承に貢献できれば幸いです。

当組合青年部会においては、長野県下各地区ごとの横のつながりを大切にし、情報交換を行い、近隣他県とも積極的に交流を深めています。昨年は長野県が幹事県となり栃木県・群馬県との三県合同交流会を開催しました。次世代を担う青年部の活躍に今後も期待します。

私達の変わらぬモットーではありますが、安全安心で良質な建築鉄骨を供給する事が我々の責務と自負し、組合一同研鑽し、さらに信頼の得られる製品を製作する事に努める所存であります。

本年も各界のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

最後に皆様方のご健勝をご祈念申し上げご挨拶と致します。



組合通常総会開催

平成 24 年度通常総会は伊那市 (南信支部) で開催



組合の通常総会が5月25日に伊那市のマリエール伊那で開かれました。

今年は、南信支部が当番になり、支部長を中心に南信支部の皆様にご準備をいただき当日の総会を無事迎えることができました。

今年度は南信支部の組合員さんと理事長を交えて懇談会を開き色々と意見交換をしました。

当日は長野県中小企業団体中央会から梨田主査様、地元顧問県議の古田英士様、地元伊那市から御子柴商工観光部長様、また箕輪町から柴建設水道課長様の出席をいただきご祝辞をいただきました。総会では、組合員表彰の授与と技能検定講師への感謝状と記念品の贈呈がありました。また懇談会ではB-1グランプリに出場した伊那名物ローメンのPR(ローメンズクラブ事務局：伊那商工会議所 牧田淳様)とともに

にローメンの早食い競争とタヒチアンダンスショー(代表：小松千恵子様)が行われ盛り上がりました。

本年度は、以下6項目を重点に事業計画を推進します。

1. 品質保証価格の確保
2. 鉄骨工事契約適正化の推進
3. 各種情報誌の提供
4. 学校建築の鉄骨化の推進
5. 各種資格検定・講習会の実施
6. 工場認定取得の推進

以上よろしくお願いいたします。

講演会「千代田レポートから三十七年」

通常総会で『千代田レポートから三十七年』というテーマで講演会を同時開催しました。東京鉄構工業協同組合 事務局長 加藤哲夫氏を講師にお迎えして講話を聞きました。



表彰者の紹介

永年組合の運営に携わり、多大な貢献をされた方々が組合員表彰を授与されました。表彰者は次の5名の方々です。

土屋幸男氏（㈱青木鐵工所）

下田哲郎氏（有下田鐵工所）

飯沼准彌氏（有飯 沼）

梅澤孝次氏（有梅 澤 鉄 工）

宮下一豊氏（㈱宮 下 鉄 工）



また、永年、技能検定「構造物鉄工」の講師として組合にご尽力いただきました遠藤博敏様に感謝状が贈られました。

遠藤先生への感謝状贈呈の様子

県青年部会総会

県青年部総会は伊那市「越後屋」で開催

県青年部総会が6月2日に伊那市の越後屋で開催され、今年度は役員改選の年でした。

総会終了後「事業承継と株式評価」と題して大和証券株式会社に講演をしてもらいました。相続対策（事業承継対策）の必要性や、自社株式の評価額の話をしていただいて大変なになりました。



技能五輪全国大会へ選手出場

第50回技能五輪全国大会が地元長野県で開催され、「構造物鉄工」は松本市『ふれあい技能センター』で行われました。

当組合から赤羽鉄工(株)の「川添宏平氏」が出場し、練習の成果を発揮してくれました。



組合では、7月から10月にかけて18日間の講習会を開催しました。

同種目に2名の選手を派遣した赤田工業(株)〈非組合員〉様の希望もあり、合同で講習会を行いました。

講師は、若林勝好氏・西元和人氏(有西元鉄工所)・三浦啓司氏(当組合有)三浦鉄工所専務)の3名にお願いをしました。講師の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。

組合員だより

東信支部組合員だより



東信支部
総務委員 山邊 正重

東信支部は、毎月9日を定例会と決めて小諸市にて開催し、会員相互の情報交換・親睦の場として活用しています。

昭和48年2月17日長野県鉄骨協会設立加入し、昭和60年には長野県鐵構事業協同組合が設立され、歴史の流れとともに当社もいろいろな企業道とともに人生道を学び現在に至っています。ここまでは諸先輩、社長様がたのご指導のもと、感謝に満ちた年月でありました。現在は厳しい日本経済の変動で「栄枯盛衰」する中で東信支部においては、数十社が鉄業界から去っていきました。現在Mグレード4社が中心で仲間と結束を強化して経営安定に努めているところであります。

今後も支部として若い経営者の育成にも努めまた、PRを推進し会員増強安定受注にモチベーションをあげていきたい。

私を60数年見守り続けていただいている上田地域の伝統“蘇民将来符(そみんしょうらい)”を紹介します。

天平13年聖武天皇の勅願により国土安穩のため創建された信濃国分寺八日堂で古来授けているのが蘇民将来の護符である。蘇民将来という情け深い者が巨丹長者に拒絶された

旅人に宿を貸しその言葉に従いドロヤナギに「蘇民将来子孫人也」と書き、これを携帯し門戸にかかげてその子々孫々が災厄を免れ繁栄したという説話による。

この旅人は薬師如来の化身である牛頭天王という神であって、奈良時代からこの信仰が広くひろまり薬師如来や牛頭天王を祭った各地の社寺では「蘇民将来子孫人也」と書いた紙札や板の御守などを出されたが、現在まで伝わっているものは信濃国分寺のものが最も有名である。

正月7・8日の縁日には参拝者がこれを求めて門戸にかけ家内に安置しまたは懷中に携帯し除災開運を祈願したのが当地方の古くからの伝承で、とくに村人に領与する七福神などの絵入りのものは郷土民芸として珍重される。

鉄骨業界はエンドレスであり、ピンチをポジティブに受けチャンスとして決してネガティブに考えず柔軟性を持って前進していきたい。

今の事業が継続する限り守って下さると確信するとともに皆様方には今後とも益々のご活躍を願いまして筆を置きます。



『(株)東信ジャーナル社提供』

顧問県議との懇談会

例年開催されております顧問県議との懇談会が1月22日(火)にホテル国際21で開かれました。各支部ごとに顧問をおき4名の県議会議員様をお願いしています。

我々の要望が少しでも実現に向かうよう懇談会を開き今回は以下の5項目の要望にて理事の方へ出席をしていただき開催致しました。

2名の県議会議員様のご出席の他に県建設部より真嶋建築指導課長様と山田施設課長様、建築指導課主任専門指導員の島方様、また県商工労働部から人材育成課課長補佐池上様のご出席を賜りました。

懇談内容は以下のとおりです。

- 1) 鉄骨工事の建築物と耐震補強建物について、鉄骨製作部分を「鉄骨製作認定工場」の資格を持った工場を仕様書の中で指定するようお願いしたい。

県の回答：

県の発注する工事につきましては、建築物規模とか使用する鋼材、溶接方法等により「鉄骨製作工場の性能評価基準」に基づいて現場ごとに適用グレードを定めて設計図書の中で特記仕様書に記載している。ただ鉄骨製作認定工場の資格を持った工場のみと指定することは、事業者の自由な事業活動を制限することになり、独占禁止法等に触れてしまう恐れがあるため記載できない。従って同等以上の能力のある工場は承諾できるようにしている。また、小規模な工事、簡易な鉄骨工事においては監督員が承諾すればよしというふうな決め方をしている。



- 2) 「鉄骨工事の下請け適正価格による受注に関する要望書」の徹底について

県の回答：

昨年、工事特記仕様書につきまして下請契約する際には極力県内業者と契約するよう通知を出した。加えて今年度10月に県外業者を下請けにする場合は理由書を提出してもらうよう元請業者に対して県内業者の優先を促すことを発注機関に通知している。市長村につきましても12月に同様の内容で通知を出して県の取組みを伝えて協力を求めている状況である。

- 3) 入札率について

例：飯田合同庁舎耐震改修工事（技術提案付き受注希望型入札〈入札時VE方式〉）
予定価格7億2730万
受注価格4億3800万 (60.22%)
の理由をお聞きしたい。

顧問県議との懇談会

県の回答：

最近の耐震改修工事の補強方法につきましては民間企業における工期短縮、コスト縮減が期待でき、いろいろな工法がでていますが公共工事の中で特定して発注することはできない。この例(大規模工事において)は在来工法に加えてその他の工法も参加できる道を考えている。

一般の受注希望型では公共工事の場合、在来工法以外の工法でコストが安くても受注できない。そこでこの入札時 VE 方式だと在来とそうでない工法でも参加できる。

入札施行要領に基づいて低入札価格調査制度事務処理施行要領のなかの規定によって低入札による失格基準価格を適用されない。技術提案の場合のこの理由は、工法によってはコストがずっと安くできるものがあるからである。

たまたま例の飯田合同庁舎耐震改修工事の場合は在来工法のみ入札でその他の工法での提案がなかった。制度的には 60% であってもこれをだめとするものはない。確かに在来で 60% という通常だと低入札失格となるわけでこういったことがずっと続くのはおかしいことである。

コスト削減の提案、下請要件の部分を詳細にして再度行いたい。

それでだめな場合は、低入でいく場合、それから在来しか応札が無い場合 制度そのもの、またこの制度で発注することをなくすのかまで含めて検討したい。

飯田合同庁舎の場合、新しい工法がなかったのは構造的なものでコスト削減のメリットがなかったということである。

下請調査は行わない、あくまでも技術提

案方式をとった上での低価格という判断である。

顧問：

技術提案型だから低入札にあたらないということがよくわからない。

県としてはなるべくいい仕事を安くできればいいという考えがあるのはわかるが地元の企業を育てるため低入札排除をしてきた。鉄骨の分離発注が難しい中で技術型において 60% という低い値段になると元請受注金額が低いのに適正な金額で発注できるかどうかだ。

県の回答：

今回の考え方は、在来工法も活かし他の工法でも参入できるようにしたいというのが根本の考え方である。他にいい意見があればお聞かせ願いたい。

飯田合庁の場合、鉄骨の価格に限っての入札金額は 71% である。下請要件を厳しくつけてもう少しあがってくるといいが、下請けも適正価格で受注してほしい。

4) 県発注物件の特記仕様書等の対応等の問題点の改善を望みたい。

※ 1 エンドタブについて

フラックスタブの使用について監督員の承諾の判断基準を明確に教えていただきたい。

県の回答：

現在は監督員の判断である。ある一定の基準を設けたいと思っている。他県等の状況を調査したうえで決めていきたい。

顧問県議との懇談会

※2 錆止め塗料仕様が一般事項、構造特記、構造図指示の中で食い違いが時々見受けられます。統一して頂くようご指導をお願い致します。

県の回答：

現在は特記仕様書に記載している。設計士の見落としがないようにという配慮から構造特記の中にも記載されているということがあります。確かに内容に食い違う事例が見受けられました。今後、記載箇所の統一と再度発注時点で確認をしたいと考えている。

※3 工事物件に対して単価が物価版では標準的な施工規模が示されているが、小物件から大型物件まで同じ単価が入っているきらいがある。また、発注時期と積算時期にずれがあるにもかかわらず現状に合う様に補正されていない。

県の回答：

単価については物価版をいれる。設計と発注がずれたような場合は見直して単価をいれるというのが基本です。小口単価がございすのは小口単価を使う、またないものについては見積をとるのが原則である。

同じ単価が入っているということは間違いなので今後は再度確認をしながら発注をしていきたい。変更時の問題は双方で納得するような協議をして進めていきたいと思っている。

県の回答：

経緯を始めに説明していただいた。

13年度末に県の上田分校を廃止したことに伴って建物・敷地を上小会に貸し付けすることになり溶接科を継承して訓練をやってきた。

訓練生の減少につき23年度末で訓練終了にともなって24年10月末、建物等の上小会との賃貸契約の解約に同意した。

県としての対応は24年11月～26年3月31日までは施設管理をする体制を整えるため予算要求している。この間は管理経費の一部負担にて貸し付けを考えている。

上田地域高等職業訓練協会の準備会が昨年7月に発足され、同会が新たな団体設立の準備段階に入っており、県も同会の研修会にて認定職業訓練の説明をさせていただいた。この団体の認可等につきましては申請に基づき相談にのりたいと思っている。

今後、建物・土地等の貸し付けに関しては財産活用課、県の財政当局等と、また国とも協議していくが必要になる。



5) 上小高等職業訓練校の溶接科棟について

理事会、委員会だより



理事会、正副常任理事会、 各委員会開催状況

(自平成 24 年 4 月 ～ 至現在分)

理 事 会	4 回
正副常任理事会	3 回
委 員 会	
・ 総務委員会	4 回
・ 経営近代化委員会	1 回
・ 品質保証推進委員会	2 回
・ 教育技術委員会	1 回

教育技術委員会だより



教育技術委員長
倉科 賢三
(株)倉科鐵工所 社長)

教育技術委員会では技能検定「構造物鉄工」の実技講習会および試験会場を今年度から松本市「ポリテクセンター松本」に移しました。

会場を移動するに当たっては様々な面で高木理事長、前委員長の一ノ瀬社長にサポートをしていただきました。

新たに作業台も製作し今までの床での作業が大幅に軽減、改善され、会場の環境も明るく広い場所となり、合格率も昨年に比べてアップしました。

関係各位、特に高木理事長には大変お世話になりました。



青年部会だより



平成 24 年度 11 月 9 日 (金) 三県合同交流会開催 (兼 青年部会研修事業)



青年部会長
青木 光幸
(株)青木鐵工所副社長)

今年度青年部会では三県合同交流会(群馬・栃木・長野)を開催しました。毎年 1 回各県持ち回りで事業を企画し、三県の青年部会会員の交流を図る目的として行っております。3 回目にあたる今年は長野県が幹事を担当し、各県青年部会会員約 20 名の参集のもと、『カーリング競技体験』を北佐久郡軽井沢町の風越公園内スカップ軽井

沢において行いました。

約 3 時間の限られた時間の中、競技の概要や基本的な指導を頂いた後、長野県 2 チームと各県 1 チーム、計 4 チームに分かれてリーグ戦形式のゲームを行いました。実際にゲームを行うと皆熱が入り、1 投ごとに一喜一憂しておりました。優勝は群馬県でした。その後は場所を移し懇親会を行い、情報交換など各県の方々と懇親を深めることが出来ました。

今回の企画を開催するにあたり、長岡鉄工(株)長岡社長をはじめ、社長夫人並びに各地区長及び組合事務局宮原さんには多大なるご尽力ご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。



工場認定申請及び予定状況

工場数 69 (内認定工場 46 / 未認定工場 23)
(平成 24 年 4 月 1 日現在)

24 年 4 月の認定申請工場は 4 社が申請
しました。

内訳 H…1 社 M…2 社 R…1 社

24 年 10 月の認定申請工場は 5 社が申請
しました。

内訳 M…4 社 R…1 社
(内 新規 R 1 社)

※7 月 27 日(金)、11 月 30 日(金)と申請
工場を対象に 7 月は「ホテルモンターニュ
松本」、11 月は「メルパルク長野」で研修
会を開きました。

組合員の動き NOW

入会、脱退なし。

現在の組合員数は 69 工場です。

■ 北信支部	19 工場
■ 東信支部	11 工場
■ 中信支部	23 工場
■ 南信支部	16 工場



組合からのお知らせ i

通常総会のお知らせ

平成 25 年度通常総会は、東信支部が当
番で 5 月 21 日(火)上田市「上田高砂殿」で
開催予定です。支部ではすでに準備に入っ
ております。組合員の皆様の大勢の参加を
お待ちしております。

訃報

当組合で(株)武田鐵建社長 武田由一さんは
62 歳にて 5 月 31 日にお亡くなりになりまし
た。ご冥福をお祈り致します。

当組合で(株)三協産業青木工場社長 山邊正
重様お母様の次子さんは 90 歳にて 6 月 24 日
にお亡くなりになりました。ご冥福をお祈
り致します。

当組合顧問で県議会議員議長の平野成基様
お母様の春枝さんは 91 歳にて 8 月 28 日にお
亡くなりになりました。ご冥福をお祈り致し
ます。



当組合で(株)中島鐵工所会長 中嶋光雄さん
は 92 歳にて 10 月 19 日にお亡くなりになりま
した。ご冥福をお祈り致します。

当組合の元理事 柴田卓志さん(綿半テクノ(株))
は 62 歳にて 10 月 28 日にお亡くなりになりま
した。ご冥福をお祈り致します。

当組合で赤羽鉄工(株)会長 赤羽榮治さんは
84 歳にて 1 月 27 日にお亡くなりになりまし
た。ご冥福をお祈り致します。

編集にあたって

組合員の皆様、電子版 40 周年記念誌はいかがでしたでしょうか。

賛否両論あるかと存じますが、予算と内容をぎゅっと併せた意味では画期的なものであったと思っています。

また、本誌「てっこう長野」につきましても同様にホームページ上での閲覧とさせていただきます。

便利な様でいて、さっと見たい時にパソコンを開かないといけないというジレンマがあるかと思いますが、経費・労力削減の意味で今後も各種通知なども順次パソコンの活用を進めて参ります。なにとぞご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

総務委員長 西澤 章

表紙のことば

『信濃国分寺八日堂住職による「蘇民将来子孫人也」御守書き入れの様子』

ドロヤナギに「蘇民将来子孫人也」と書き、これを携帯し門戸にかかげてその子々孫々が災厄を免れ繁栄したという説話から「蘇民将来子孫人也」と書いた紙札や板の御守を家内に安置しまたは懷中に携帯し除災開運を祈願したのが当地方の古くからの伝承で、とくに村人に領与する七福神などの絵入りのものは郷土民芸として珍重される。

東信支部 総務委員 山邊 正重
写真提供 『(株)東信ジャーナル社』

安全・安心

建築鉄骨は品質保証の時代



当組合員の工場は、毎月第2・4土曜日を休日させていただきます。

当組合のNTKマークが安全・安心の目印です。

長野県鉄構事業協同組合

長野市若里7丁目11番8号 坂田ビル3F TEL 026-228-5748 FAX 026-228-0590